



Teku-Teku  
FEATURE

山梨ジュエリー。  
新世代が放つ輝き。



[上] [Think…あふれる]  
(Koo-fu Collection 2016-SPLASH-)  
デザイナー 飯島恵子  
[下] [Cube]  
(born jewelry)  
貴石彫刻家 詫間康二



# 煌めきの中に宿る、 ジュエリーへの情熱。

ジュエリーの街、山梨から発信する

産地ブランド「Koo·fu(クーフー)」。

山梨で研究開発された<sup>※</sup>オリジナル素材と高度な加工技術、

そしてデザイナーの感性の融合により生み出されました。

「Koo·fu」のブランドテーマは、自然で繊細な優美。

作品はKoo·fuコレクションとして、県内外で発表されています。

人の心を引きつける魅力にあふれた「Koo·fu」。

そのプロジェクトに携わる若手デザイナーの一人、

飯島恵子さんにジュエリーデザイナーへの想いを聞きました。



※Koo-fuオリジナル素材

- Koo-fu Pt950  
従来のものより硬く傷が付きにくく、白く輝くプラチナ
- Koo-fu K18WG  
メッキ加工を施さなくても白く輝くホワイトゴールド
- Koo-fu K18YG, Koo-fu K18PG  
変形や変色しにくいイエローゴールドとピンクゴールド
- Koo-fu Ag950  
従来のものより純度が高く、変色しにくいシルバー

ジュエリーデザイナー

**飯島 恵子**さん (笛吹市出身)

山梨県立宝石美術専門学校卒業後  
(株)光新宝飾に就職

株式会社 光新宝飾

甲府市相生2-9-10 / TEL. 055-227-1666

## 世界に一つだけの ジュエリーに懸ける想い

飯島さんは就職した年からKoo・fuに携わっています。「Koo・fuは各会社の垣根を越えて職人やデザイナーが集まって取り組んでいます。ベテランの皆さんに囲まれて初めころは付いていくのに必死でしたが、今では自分にしかできない作品を考えていけるようになりました。特に心掛けているのが、正面から見ただけでは分からない裏側やサイドなどの細部にまでこだわったデザイン。それが商品のためであり、お客さまのためですから」

## Koo・fuの質の高さは 山梨だから実現できるもの

Koo・fuはオリジナルの地金を使用しています。例えば、純度の高いKoo・fuプラチナ950は硬くて傷が付きにくく、長くきれいに使えるよう研究開発された素材です。「加工は大変ですが、宝飾産業の長い歴史と伝統に培われた確かな技術がある山梨だからこそできるジュエリーなんです」と誇らしげに語る飯島さん。

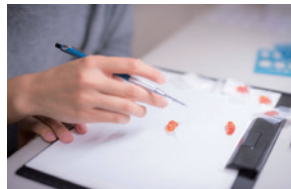
来年Koo・fuは10周年を迎えます。「節目の年となるので、もう一度しっかり気を引き締め直し、新たなチャレンジをしたいと思っています。Koo・fuは若手の職人やデザイナーが持つ新しい力と、熟練の職人の考えが融合し、それぞれの個性が共鳴して生み出されるものです。一度手に取っていただくと、その魅力を感じていただけたらと思います」



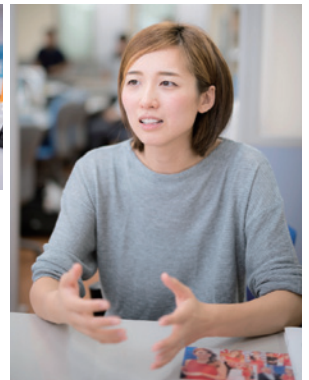
【上左】『Toki／トキ』  
今、この瞬間も進み続ける、目には見えない「トキ」の流れを表現。  
(Koo-fu Collection 2013-Talk-)

【上中】『fringe／奏で』  
動きにあわせて自由に揺れる音を表現。  
(Koo-fu Collection 2014-Japan Color-)

【上右】『minamo／水面』  
太陽の光が水面を照らす。この一瞬の煌めきをカタチに。  
(Koo-fu Collection 2015-Mode Jewelry 直線と曲線-)



使いたい石をデッサンし、ジュエリーのデザインを考えていく飯島さん。「パソコンを使ってデザインする方もいますが、私はアナログ派なんです」と笑顔で話してくれました。





## 山梨発・新ブランド 「born jewelry」 伊勢丹新宿本店に出現

三越伊勢丹は9月、職人による一点物のジュエリー販売を行う「ISETAN MITSUKOSHI meets born jewelry」イベントを本館3F リ・スタイルで開催しました。顧客の声を具現化した独自商品（オンリー・エムアイ）キャンペーンの一環で、新たなファッションサイクルの一つとして、「希少性」「オーダー」などをキーワードに取り組みました。



## 職人の技と クリエイターの 発想力の融合。

職人と異業種クリエイターたちの

コラボレーションなどから生まれた、山梨発の新ブランド

「born jewelry（ボーンジュエリー）」。

コンセプトは、「ジュエリーを手に取りやすいように生まれ変わらせる」。それぞれの作品からは、

オリジナリティーあふれるファッション性が感じられます。

「born jewelry」立ち上げの代表、

仙洞田知紘さんにお話を伺いました。

心を揺さぶるジュエリーは、

「山梨愛」から生まれている。

「山梨の若手職人さんは、先代たちの足跡を汚さないようにという強い気持ちを抱き、先代に追い付き追い越すために、技術の研さんを積んでいます。しかし山梨のジュエリー産業の継続的な発展のためには、新しいことにも果敢にチャレンジしていかなければなりません」



[左]Plate Ring [右]Crush Ring (共に2016 1st collection)

金工と石彫の技法を使うのが私の作品の特徴です。右の作品は以前「欠っ込み※」という山梨の伝統技法を用いて水晶のグラスを作ったことがあり、そのグラスのイメージをそのまま生かしたものです。左の作品は原石の表情を生かして切り出したリングです。

[欠っ込み]…ダイヤモンドカッターなどの機材が登場する前、手作業で水晶から球を割り出していた時代の技。

## 職人兼クリエイターとして参加

伝統工芸士  
貴石彫刻家

## 詫間 康二さん

今回、高井さんがデザインした作品も制作しました。異業種の方とのコラボはそれぞれのターゲット層も違い、お互いの世界観に触れることができるので面白いです。今後さらに交流が深まれば、より刺激を与え合うようになるのでは、と楽しみにしています。



## 異業種クリエイターとして参加

子供服ブランド frankygrow  
デザイナー

## 高井 知寿子さん

山梨には世界で勝負できるクリエイターたちがいます。尊敬し合える仲間と「山梨」というキーワードでつながり、作品作りができることを光榮に思っています。



## 仙洞田 知紘さん

カガヤカ代表

「山梨を、日本をもっと輝かせたい」をコンセプトに、山梨県の伝統工芸・地域産業資源を独創的なスタイルで提案している「カガヤカ」。新ブランド「born jewelry」は「カガヤカ」の新プロジェクトとして今年3月に始動。

今回、ジュエリー業界で活躍する詫間康二さん、後藤晃一さん、大寄智彦さんと、子供服デザイナーや造園家、染色家など異業種クリエイターとのコラボを実現しました。「自分たちが生まれ育った故郷のために何かしたい『地元愛』と、『山梨』というキーワードでつながった仲間たちとブランドをスタートさせたいと、あえて山梨ゆかりのクリエイターに声を掛けました」と力を込めます。

「山梨はジュエリーの一大産地ですが、これまでは主に高級宝飾品を扱っていたため、ユーザの年齢層は高い傾向にありました。そこで、できるだけ手に取りやすい価格帯で、なおかつファッション性の高いジュエリーを提案し、若い世代のユーザを増やしたいと思ったんです。山梨イコール、ジュエリーという認知をさらに広めていくためにも、いかに心を揺さぶる作品を作るかということが大切です」